隔週金曜掲載

和歌山を創る新聞 わかつく

Vol.259
2021.4.16

認定特定非営利活動法人
わかやま NPO センター
〒640-8331 和歌山市美園町 5-6-12
TEL 073-424-2223　FAX 073-423-8355
E-mail info@wnc.jp　URL http://www.wnc.jp/
編集　志場 久起

和歌山を創る新聞「わかつく」バックナンバー

http://www.wnc.jp/wakatsuku/

和歌山を創る新聞「わかつく」は 2013 年 4 月以降のバックナンバーを PDF 形式で公開しています。2017 ～ 18 年に連載した「SDGs を知ろう」全 22 回もまとめてダウンロードできます。

コロナ禍で和歌山の子育て環境に変化あり?!

新型コロナウイルス感染症の広がりとともに生活環境が大きく変わった人は少なくありません。和歌山県内で活動する子ども・子育て支援 NPO の協力をいただき、和歌山県内の子育て世帯に、生活の変化を聞きました。

子育てが孤独に

和歌山県内で夫婦と子ども2人で暮らす中本さん（仮名）。昨年1月に2人めのお子さんを出産した直後に新型コロナウイルス感染症が広がりました。

上のお子さんは保育園で預かってもらうことができましたが、新型コロナの感染を防ぐため、外出は買い物に行くときくらい。高齢の両親に手伝いを頼むこともはばかられ、日中は下のお子さんと2人きりの生活が続き、孤独感を感じたといいます。

上のお子さんが生まれた後は、地域の子育て支援施設に出かけるなど他人と交流する機会があったものの、それも激減。メールやSNSで友人との近況報告等のやりとりをすることはあっても、実際に会って話すことはほとんどなくなり、ストレスが増えたそうです。友人のなかには幼稚園や保育園が休園になり、仕事に支障が出たというケースも。中本さんは多くの子育て世帯に大きな影響があると感じており、「従来できたことができなくなるのがこれほどしんどいとは思わなかった」といいます。

子どもの生育に影響か？

中本さんは、乳児検診を担当している医師が「最近、成長が少し遅れていたり、発語になんらかの影響が出ている子どもが増えているように感じる」と話していたことが気になっています。赤ちゃんが人と接する機会が極端に減っていること、マスク越しの会話が多くて口の動きがわからないことなどが影響しているようです。

こうした心配をせずに済むには、早くコロナが収まるのが一番なのですが、まだ先は見通せません。コロナ対策にはマスクが有効とは言われていますが、小さい子どもはマスクがなかなかできないため、子どもを連れた外出が難しい状況は変わっていません。

今年に入り、以前より外出する機会は増えたといいますが、コロナ対策が取られたうえで気軽に外出できる場所が近くにないと、ストレスがたまってしまう親御さんは減らないのではないかと危惧しています。

支援が届かないジレンマ

様々な福祉の支援を必要とする方を対象に、民生児童委員のみなさんが戸別訪問等を通じた状況把握をおこなっています。しかし、新型コロナの影響で戸別訪問が困難になり、生活に困っている方の声が地域に埋もれてしまう事態を生むことになってしまいました。

また日々の生活に追われ、新型コロナで影響を受けた方を対象とした公的支援や、社会福祉協議会が実施している生活資金貸付などの制度のことが伝わっていないケースも多くみられるといいます。

子どもを支援する現場では、様々な支援策を保護者に紹介しながら、同じ境遇にある方同士がつながることで子育て世帯の「孤独感」を解消していく、という難しい取り組みが求められています。

ある子ども食堂関係者は、今回のコロナ禍で、平常時から地域の様々な活動が緩やかにつながり、子どもを見守る体制が求められると痛切に感じた、と訴えます。

不安定な状況にあっても、いわゆる「社会的弱者」をより追い詰めるようなことになってはなりません。地域で暮らす人々がつながりあう「地域共生社会」の重要性を再確認し、地域に即したあり方を検討する必要がありそうです。（志場久起）

新型コロナウイルス感染症に対応する支援策を行政・民間とも次々に打ち出していますが、本当に支援が必要な方になかなか情報が届かないというジレンマがあります

ますます厳しく…ひとり親世帯を取り巻く状況

新型コロナウイルス感染症の拡大がひとり親家庭に及ぼした影響はいっそう深刻です。先月発足した「和歌山県こども食堂ネットワーク」に参加している子ども食堂の関係者に聞きました。

◆　◆　◆

昨年４月下旬、ある子ども食堂に「食料がいただけると聞いて」という女性が訪ねてきました。その子ども食堂が、ひとり親世帯を対象に食料を配布していることを人づてに聞いたようです。彼女は飲食店で働いていたそうですが、新型コロナの影響で収入が大幅に減ったといいます。

和歌山県内でも飲食業や観光業を中心に休業を余儀なくされたり、雇い止めにあったりといった方が少なくなく、もともと相対的貧困率が高い傾向にあるひとり親世帯の生活がますます厳しくなったとみられます。

子ども食堂を訪れる人からは、生活がいっそう不安定になったことなどからイライラして「家族に辛くあたった」「子どもに手を上げそうになった」といった悲痛な声が少なからず聞かれたそうです。

新型コロナの流行以降、子ども食堂を利用する世帯の状況は全般的に悪化しているといいます。たくさんの利用者を受け入れて一緒にご飯を食べ、人と人のつながりをつくることが子ども食堂の目的の一つでしたが、それすらも困難な状況に。定員をごく少数にしたり入れ替え制にしたり、食事ではなく食材の提供に切り替えたりといった工夫でなんとか人と人のつながりを維持しているのが実情です。

【お知らせ】
次号のわかつくは
5月７日付に掲載
予定です

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための衛生用品を無料配布します

NPO・ボランティア団体対象

クラウドファンディングサービス“Readyfor”が実施する『新型コロナウイルス感染症:感染拡大防止基金』に寄せられた寄付金を原資に、和歌山県内で非営利活動をおこなう団体が安心して活動できるように、衛生用品の配布をおこないます。

マスク　フェイスシールド　手指消毒液　使い捨て手袋

商品の納品状況により、セット内容が変更になることがあります。
＊1 セット 50 人分を 120 団体に配布予定。

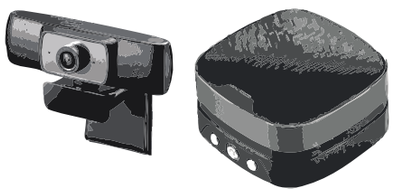
対象：和歌山県内で活動する非営利団体（任意団体含む）
2022 年 3 月までにおこなわれる事業や活動が対象です。
締切：第 2 次　4 月 28 日／第 3 次　5 月 28 日
【ご注意】
※ 応募多数の場合は、抽選となります。
※ 4 月中旬から順次発送します。
※ 活動を取材させていただくことがあります。

お申し込みはこちらから

NPO・ボランティア団体向けウェブ会議用スピーカーフォン・広角カメラの貸し出しを実施します

クラウドファンディングサービス“Readyfor”が実施する『新型コロナウイルス感染症:感染拡大防止基金』に寄せられた寄付金を原資に、和歌山県内で非営利活動をおこなう団体を対象としたウェブ会議用スピーカーフォン・広角カメラの貸し出しを実施します。

広角カメラは視野角 150°、Full HD 画質。スピーカーフォンは概ね半径 5m の範囲の集音機能と、スピーカー機能があります。



※この写真は機器のイメージです

スピーカーフォン・広角カメラとも USB 接続ですぐにご利用いただけます。申し込みフォームにある利用規約をご確認のうえ、お申し込みください。なお、機器ご利用に関するご質問にはお答えできません。1 回あたりの貸し出し期間は返送日を含め 7 日以内とさせていただきます。

対象：和歌山県内に所在地があり、かつ和歌山県内で活動している非営利団体
料金：無料（返送にかかる送料も不要です）
締切：6 月 25 日
【ご注意】
※ お申し込みが重なり、用意している個数を超える場合はご期待に添えないことがあります。

お申し込みはこちらから

【両事業共通】事業や活動に利用した時の写真の提供や報告コメントをお願いすることがあります。また、Readyfor への報告に利用させていただくことがあります。
「第 3 回新型コロナウイルス感染症に関する和歌山県内の市民活動に対する影響のアンケート」にご協力ください▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶

認定特定非営利活動法人
わかやまNPOセンター
〒640-8331　和歌山市美園町 5 丁目 6 番 12 号
TEL 073-424-2223（火曜～金曜 10 時～ 17 時）　info@wnc.jp